

## 今日のトピック 4月下旬から軟調な原油価格（2019年5月） 需給は引き締め継続、6月25日のOPEC総会に注目

### ポイント1 原油価格は4月下旬から軟調 世界的にリスク回避の動き広がる

- 北米の代表的な原油価格であるWTI原油価格は、今年に入って堅調に推移していましたが、4月下旬以降は軟調な動きとなっています。
- 米中貿易摩擦の激化懸念およびそれを受けた世界的な景気減速懸念が高まったことや、米国の原油在庫が高水準になっていることが背景にあります。

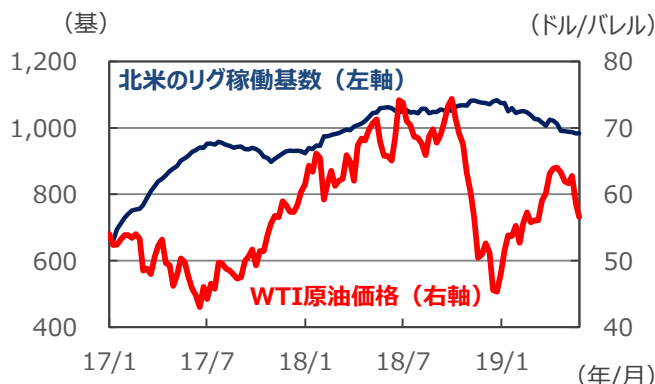
### ポイント2 OPEC産油量は低位推移 現状のままなら今年はやや需要超か

- 5月14日に公表されたOPEC（石油輸出国機構）月報の5月号によると、OPEC加盟国の原油生産量は低水準で推移しています。4月の生産量は日量で前月比ほぼ横ばいの3,003万バレルでした。
- 2019年の原油需要見通しは、全世界で前年比+1.2%の日量9,994万バレルと予想されています。需給が均衡するにはOPEC加盟国で3,058万バレルの供給が必要とみられ、現状程度の産油量が続くならば、今年はやや需要が供給をやや上回りそうです。

### 今後の展開 6月25日のOPEC総会では 7月以降の減産幅に注目

- リスク回避の動きなどから原油価格は下落しましたが、米国のイラン・ベネズエラへの禁輸措置や産油国の政情不安が継続しているほか、OPEC加盟国および非加盟国の主要産油国が6月末まで協調減産の規模を維持することから、需給が引き締まった状態にあることに大きな変化はないと考えられます。
- 米中貿易協議については不透明感が強い状況が続いていますが、両国とも自国の経済・市場への大きなダメージは避けたいと考えられることから、今後両国が歩み寄り、協議が進展することが期待されます。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは2017年1月6日～2019年5月30日。ともに週次データ。リグ稼働基数は2019年5月24日まで。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2017年	2018年	2019年
<b>世界需要</b>	<b>97.3</b>	<b>98.7</b>	<b>99.9</b>
<b>供給</b>	<b>96.1</b>	<b>99.0</b>	<b>99.9</b>
非OPEC	64.1	67.1	69.4
OPEC	32.0	31.9	30.6
<b>需給バランス</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>0.3</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス＝供給－需要。▲は需要超過。  
(注2) 単位は百万バレル（日量）。  
(注3) 2017年、2018年は実績。2019年はOPECによる予想。ただし、2019年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- OPEC加盟国および非加盟国の主要産油国は、5月19日に減産状況を確認する委員会を開催しました。その中では、7月以降も協調減産を続ける方針が示されましたが、減産幅の決定は6月25日のOPEC総会に持ち越されました。総会では減産幅がどの程度縮小されるかが注目されます。

**ここもチェック!** 2019年5月28日 2019年6月の注目イベント  
2019年4月26日 年初から上昇が続く原油価格（2019年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。